

福島県金融経済概況

1. 概 況

県内景気は、世界的な景気減速の影響を受け、製造業において生産水準を一段と引き下げる動きがみられるほか、雇用環境も厳しさを増すなど、悪化が続いている。

すなわち、最終需要をみると、個人消費では、雇用不安や景気の先行きに対する不透明感の強まりから消費者マインドが厳しさを増しており、弱めの動きがさらに広がっている。住宅投資は、貸家建設が減少したことを主因に前年を大幅に下回った。公共投資も年度初来からの累計額としては低調に推移している。設備投資については、受注減少や収益悪化から製造業を中心に下方修正する動きがみられる。

鉱工業生産動向をみると、内外需要の急速な落ち込みを受け、生産水準を引き下げる動きが一段と強まっている。

雇用面では、製造業を中心に雇用を調整する動きが強まっており、厳しさが増している。

消費者物価指数は、円高や原油価格下落を背景に下落傾向にあるものの、食料品を中心に引き続き高水準となっている。

2. 最終需要動向

個人消費は、雇用・所得環境が厳しさを増していることを背景に、自動車販売や家電販売を中心に弱めの動きがさらに広がっている。

- 大型小売店売上高は、休日日数の増加から前年を上回ったが、基調としては節約志向が強まっている。
- 新車登録台数は、2か月連続で前年を大幅に下回った。
- 家電販売は、値下げ効果からデジタル家電が前年並みの販売となったものの、総じて不冴えな状況にある。
- レジャー動向をみると、国内外ともにレジャー支出を抑える動きがさらに強まっている。

設備投資は、高水準の投資が計画されているが、受注減少や収益悪化から製造業を中心に下方修正する動きがみられている。

住宅投資は、空室の増加を背景に貸家建設が減少したことを主因に、前年を大きく下回った。

公共投資は、大型案件の発注が相次いだことから前年を上回ったものの、年度初来からの累計額としては低調に推移している。

3. 鉱工業生産動向

生産面をみると、内外需要の急速な落ち込みを受け、生産水準を引き上げる動きが一段と強まっている。特に、輸送機械、電気機械、精密機械では、稼働日数の削減や時間外勤務の取り止めなどによって生産水準を一段と引き下げている。また、こうした動きは素材業種にも波及しており、化学、紙・パルプ、非鉄金属でも生産水準を引き下げる動きが広がっている。

4. 雇用動向

製造業における生産水準の大幅な引き下げに伴い、輸送機械、電気機械を中心に雇用調整に踏切る先が増加しているなど、雇用や雇用者所得を取り巻く環境は厳しさを増している。

- 有効求人倍率は前月比悪化し、平成15年7月以来の0.58倍となった。
- 人員整理は前年を大幅に上回った（10月：167人→11月：411人〈前年比+89.4%〉）。
- 所定外労働時間は、製造業で大きく落ち込んだことから前年を大幅に下回った。
- 雇用者所得は6か月振りに前年比マイナスに転じた。

5. 金融情勢

銀行券受払高は発行超となった。

実質預金は個人預金の増加を主因に、全体では前年を上回った。

貸出は個人向けが増加したこと等から、全体では前年を上回った。

貸出約定平均金利（総合〈含む当貸〉）は、地元地銀・第二地銀は前月を上回ったものの、信金は前月を下回った。

企業倒産件数は、建設業を中心に増加し平成20年中最多となった。

以 上